

かんづけ うぶすな
神付・産土の森の会



森の小さな社で子どもたちに地元の伝統行事を説明



子どもたちも手伝い炭焼きの窯出し



一般市民参加による里山自然観察会

かんづけ うぶすな
神付・産土の森の会は、樹木の除間伐や枯れ木の整理、下草刈りなどの整備により、地域に落葉広葉樹を主とした明るい里山を取り戻すための活動を行っている。森林ボランティア団体。森林整備のほかにも、散策路の整備や交流事業などを行い、多くの人々が憩い、交流する里山づくりを目指しています。

「新しく明るいふるさとの里山づくり」を目指して

神付・産土の森の会の活動地は、六甲山系の北側の神戸市北区大沢町神付おおさわちょうかんづけにあります。

大沢町は昔から米を中心とした農業の盛んな地域で、神

戸市から農業振興地域に指定され、農業に力を注いで来ましたが、しかし、農業の担い手の高齢化や過疎化の進展により、空き農地や耕作放棄地が増えています。

神付地区は共同生活の維持が難しくなる限界集落へと近づきつつあり、地域をあげて野菜づくりなど農業の発展に

取り組んできたものの、このままでは農地を守りきることが難しい状況にありました。そのため、町の人達の力を借り、都市と農村の交流、農産物の直売などに力を入れ、地域の発展を図るほか、竹林オーナー制度や市民農園の開設、新規就農者の受入れ等によって地域の活性化に取り組んでいます。

また、神付地区の里山は農地以上に放置され、荒れ放題の状態にありました。こうした状況を受け、「農地と里山は一体」という考えのもと、「新しく明るいふるさとの里山づくり」を行いたいとの思いに賛同してくれた住民の私有地約20ヘクタールを神付・産土の森」と名付け、兵庫県の支援を受けて、平成20年3月に森林ボランティアによる整備に取り組みむことにしました。これが神付・産土の森の会の活動のはじまりです。

